

群 教 セ	G10 - 01
	令3.278集
	道徳

道徳的価値について多面的・多角的に考え、 自分の考えを深める生徒の育成

—家庭や地域の人材の活用を通して—

特別研修員 黒岩 功太

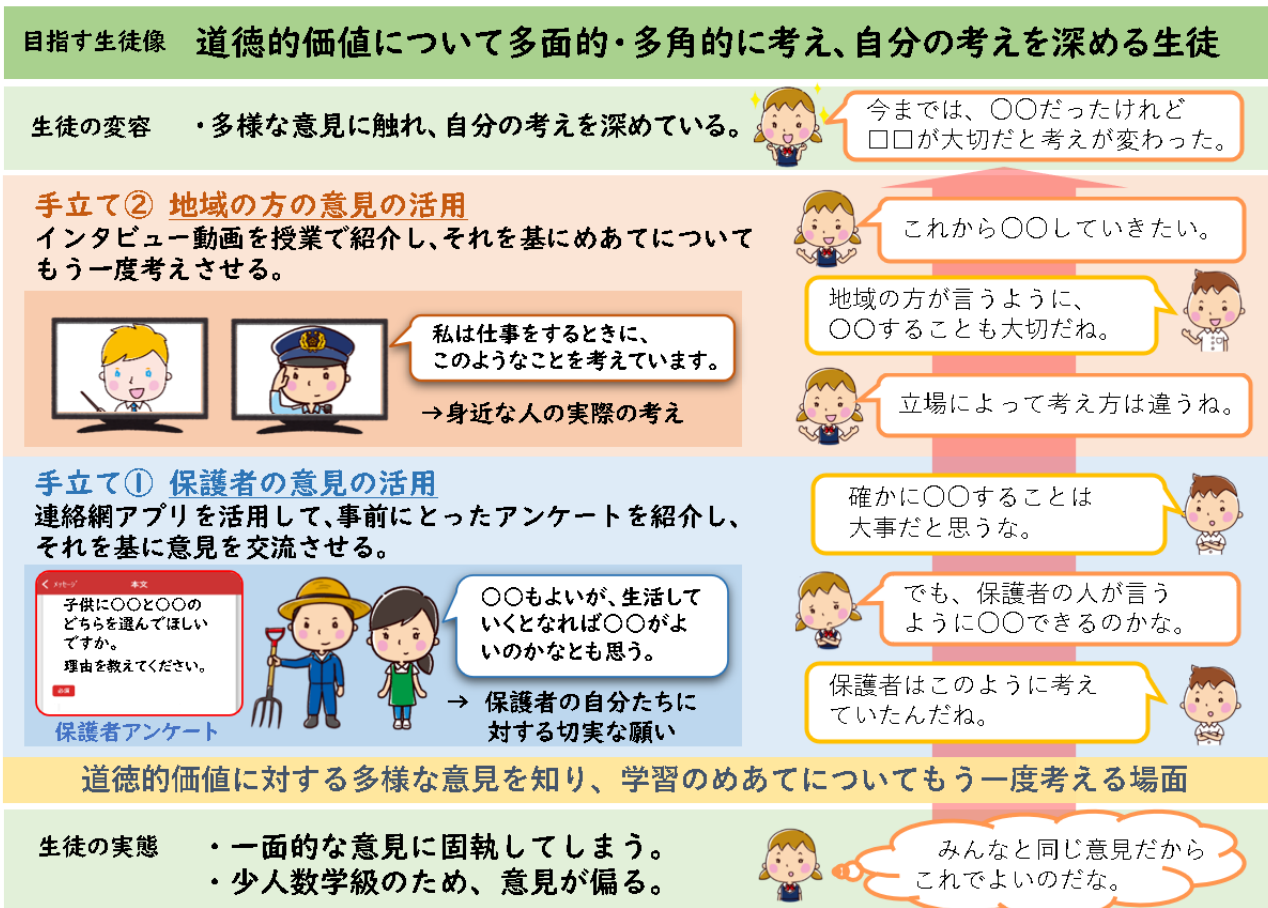
I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」（平成29年7月）では、「家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得る」ことについて述べている。

研究協力校（以下、協力校）は小規模校である。生徒の多くは、授業に意欲的に取り組み、教師の発問に対して自分の考えをもち、小集団での話し合いで発表することができる。また、ワークシートに自分の意見を表現することができる。しかし、少人数学級のため、同じような答えに偏ったり、生徒自身が発表するだけで満足し、一面的な意見に固執したりすることも多いため、道徳的価値について考えを深めることに課題が見られる。そこで、このような生徒に対して、保護者や生徒にとって身近な地域の方の意見を授業で紹介し、異なる立場の人の道徳的価値に対する思いに触れることで、生徒同士の交流でもった自分の考えを更に深めることができると考えた。以上のことから、家庭や地域の人材を活用することによって、道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分の考えを深める生徒を育成できると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

道徳的価値に対する自分の考えを深めるためには、多様な意見に触れることで多面的・多角的に考え、生徒がその意見を基に交流することが必要である。そこで、展開後段の「道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える」場面において、次の手立てを講じる。

手立て① 保護者の意見の活用

手立て② 地域の方の意見の活用

手立て①について

事前に保護者から教材の内容に関するアンケートを取る。アンケートは学校で使用している連絡網アプリを活用することで、保護者の負担が少なく容易に行うことができると考えた。保護者からのアンケート結果は、教材についての中心発問で道徳的価値に対する意見を学級全体で交流した後に、ICT端末を活用し、学習支援ソフトで共有して紹介する。保護者の立場からの教材に関わる意見を知り、その意見を基に意見を交流することで、道徳的価値を自分事として捉え、自分の考えを深めることができると考えた。

手立て②について

学校行事等で関わりのある地域の方に、事前にインタビューを行い、動画を撮影する。打合せにおいて授業のねらいを地域の方に伝え、道徳的価値に対する考え方を確認した上でインタビューを行う。動画は、授業のねらいに合わせて編集して生徒に視聴させる。その動画を通して、保護者とは違った立場であり、生徒にとって身近な大人の意見に触れさせたい。複数の地域の方の道徳的価値に対する考えを知り、それを基にもう一度学習のめあてについて考えることが、自分の考えを深めることにつながると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て①では、保護者の子供への切実な願いが本音で表現されていたため、道徳的価値について自分事として捉えることができ、自己のよりよい生き方について考えることができた。
- 手立て②では、生徒にとって身近で関わりがあり、異なる職種の方二人にインタビューした動画を紹介したことによって、実体験に基づいた考えを知り、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができた。
- 手立て①、②を講じたことによって、教科書教材や生徒同士の交流だけでは引き出すことのできない道徳的価値に対する多様な考え方に触れることができた。以前に比べ、振り返りにおいて道徳的価値について自分事として捉えている記述や、実践意欲を高めている記述が見られ、心の内面での深まりが見られた。

2 課題

- 手立て①では、保護者アンケートの結果を読むのに時間が掛かってしまった。短時間で読み、読んだ後の意見交流の時間を十分にとるために、保護者の意見を要約したり、キーワードとなる部分を強調したりするなど、提示の仕方を工夫する必要があると感じた。
- 手立て②では、文章で提示する方法と異なり、映像資料は手元に残らないことから、動画をより効果的に提示するために、要点を絞って短く編集し、字幕を加える工夫も考えられる。また、視聴後に説明や補足を加えて視点を整理することで、意見交流がより活発になると考えられる。
- 保護者、地域の方の意見を活用することで多様な意見に触れることができたが、意見交流の時間を確保するため、内容項目に応じて、どちらかの手立てに絞ることも必要である。

実践例

- 1 主題名 将来の自分を見つめて 内容項目 C-(13) 勤労（第3学年・2学期）
教材名 「好きな仕事か安定かなやんでいる」（出典：東京書籍「新しい道徳3」）

2 主題及び本時について

(1) ねらいとする道徳的価値について

勤労は、人間生活を成立させる上で大変重要なものである。職業の三要素には、幸福を追求するため収入を得て個人や家庭の生活を維持するという経済性と、能力や個性を生かして自らの内面にある目的を実現するために働くという個人性、分業化の進んだ社会で一定の役割を果たして社会を支えるという社会性がある。中学校の段階では、職業選択において個人の好みや経済性を優先させ、社会貢献で得られる充実感まで考えが及ばない生徒もいる。勤労を通じて社会に貢献することを自覚し、充実した生き方を追求し実現しようとする心情を育てたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、職場体験学習等の諸活動を通して、仕事のやりがいや勤勉の大切さについて学んだ。コロナ禍の実施で選べる事業所が少なくなった職場体験学習では、なりたい職業ではなく、深く考えずに事業所を選ぶ生徒もいた。働くことについて真剣に考えている生徒もいるが、将来の生き方について漠然としか想像できていない生徒や、将来の夢や希望を描けない生徒も少なくない。本実践を通して、働くことの意義について深く考え、社会貢献の目的に気付くことで、充実した生き方の実現のために自分の将来の職業について考えるきっかけとさせたい。

(3) 教材について

本教材は、就職活動を控えた大学生の「好きな仕事か安定かなやんでいる」という新聞への投書に対して、様々な立場の人が寄せた意見を紹介しているという内容である。投稿者の大学生は、企業の知名度や収入の高さを重視せず、好きなことができる「理想的な生き方」を選ぶか、結婚して家族を養えるように安定した収入をもらえる「現実的な生き方」を選ぶかで悩んでいる。それに対して、牧師や会社員等の様々な立場の人が意見を寄せ、アドバイスを送っている。働くことや職業について身近な問題として、自分との関わりで考えさせることができる教材である。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、ねらいとする道徳的価値である勤労観について多様な考えに触れ、自分の考えを深めるために「道徳的価値について多様な考えを知り、学習のめあてについてもう一度考える」場面において、以下の二つの手立てを具体化した。

手立て① 保護者の意見の活用

学校で使用している連絡網アプリを活用し、事前に保護者に「子供に好きな仕事と安定した仕事のどちらを選んでほしいですか」についてアンケートを行った（図1）。文書作成ソフトでまとめた結果を学習支援ソフトを用いて生徒に提示し、意見を交流させた。保護者の考えを知ることによって、自分事として捉え、考えを深めることができるようにした。

手立て② 地域の方の意見の活用

学校行事等で協力いただいている駐在所の警察官と、以前まで協力校に勤めていたALTに事前にインタビューを行い、動画を撮影した。内容は「職業に就いた理由」「仕事のやりがい」「今後の夢」である。ねらいに沿った意見を活用できるように編集した動画（図2）を視聴させ、学習のめあて「充実した生き方を実現するために大切なことは何だろう」についてもう一度考えさせた。職種の異なる方の実体験に基づいた考えに触れることで、考えを深めることができるようにした。



図1 保護者アンケート



図2 インタビュー動画
の一場面

4 授業の実際

導入では、本時の道徳的価値について問題意識をもたせるために、職場体験学習の写真を提示し、働く意義について想起させ、事前に行った「あなたは何を優先して仕事を選びますか」についてのアンケート結果を紹介した。働くやりがいは人それぞれであることや、どのような職業に就くかということが今後の充実した生き方に関係していることを再確認し、本時のめあてである「充実した生き方を実現するために大切なことは何だろう」を提示した。

展開前段では、大学生の投書を範読し、大学生の悩みである「好きな仕事か安定か」について、その時の自分の考えを挙手させた。その場では全員が安定した仕事を選んだが、周りに流され安定した仕事に手を挙げた生徒もいた。その後、牧師、会社員、飲食店経営、アルバイトの四つの立場の意見で共感するところに傍線を引かせながら範読した。そして、中心発問「四人の意見で最も共感できるのは誰の意見で、それはどのようなところでしょうか」について電子ホワイトボードを用いて全員の意見を共有した(図3)。生徒の意見はAの牧師に偏ったため、共感した生徒がいなかったCやDの意見についても「共感できるところはないか」という補助発問を投げ掛け、共通点や相違点を基に意見を交流した。「好きな仕事をした方がよい」というAの意見に偏っていたが、職業選択に対する多様な意見について考えることができた(図4)。

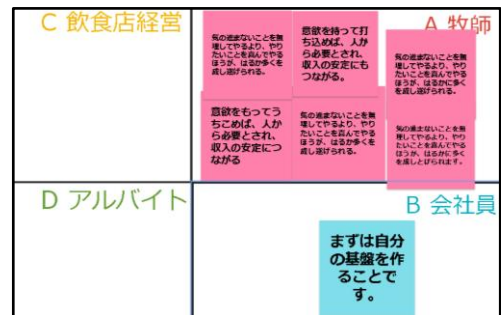


図3 生徒が最も共感した箇所

手立て① 保護者の意見の活用

展開後段では、展開前段において話の中心となった「好きな仕事か安定か」について、保護者アンケートの結果を学習支援ソフトを用いて提示した(図5)。保護者の意見には、好きな仕事に就いてほしいという意見だけでなく、安定した仕事に就いてほしいという本音も表現されていた。そうした保護者の願いが書かれたアンケート結果を真剣な表情で読む生徒たちの姿が見られた。

大学生の投書に対して、周りの雰囲気にならされて挙手をした生徒は「好きな仕事をやりたいと思っていたけれど、保護者の意見を読んで、生活していく上では安定した仕事をしたほうがよいと思った」と発言した。また、展開前段においてBの会社員の「まずは安定した仕事に就き、基盤を築くことで好きな仕事に就きたい」に共感していた生徒は、「好きな仕事をした方が自分を伸ばすことができると思った」と発言した。このように立場の違う保護者からの意見を自分事として受け入れ、自分の意見と比較する姿が見られた。保護者の意見に触れることで、他の意見について更に深く考えるきっかけを作ることができた(図6)。

A 牧師

- ・好きな仕事の方がやりがいを感じられる。
- ・やりたいことをやった方が自分を生かせる。

B 会社員

- ・基盤を築くことでやりたい仕事が見付かる。

C 飲食店経営

- ・人生長いから時間を有効に使うのもよい。

D アルバイト

- ・自分がやりたいと思った仕事でも思っている以上に大変なこともあるかもしれない。

図4 中心発問と補助発問に対する生徒の意見

- ◎好きな仕事なら本人らしく生き生きと仕事に取り組めると思う。でもやはり生活していくとなれば安定した仕事をしていくのがよいのかなとも思う。
- ◎仕事は生活していくのに必要で、好きな仕事に就いた方が本人自身、伸びていくと思います。
- ◎好きな仕事に就くのにこしたことはないのですが、好きなことだけで食べていけるものに巡り合うのは難しい。安定した仕事に就き、幸せな生活を送ることができればそれでよい。

図5 保護者アンケートの結果(一部)



図6 意見交流の様子

手立て② 地域の方の意見の活用

中心発問に対する意見や、保護者アンケートから、充実した生き方には仕事のやりがいに関係してきそうだということを再確認した。その上で異なる職業観をもつ二人の地域の方のインタビュー動画を視聴させた（図7）。視聴後、学習のめあてである「充実した生き方を実現するために大切なことは何だろう」について問い掛け、意見を交流した。生徒の意見の中には、「自分のやりたいことや夢を見付け、それを実現するために何をすればよいのかを明確にする」というように、好きな仕事に就くことのよさを理解し、夢を見付けることの大切さについて考える生徒がいた。また、「望んだ道へ行くことが自分自身を大きく成長させる。だからやりたいことをやるのが充実した生き方に大切になってくる」のように、自分の能力の向上や個性を生かして働くという職業観への気付きについて、ワークシートに記述している生徒もいた。このように、道徳的価値について自分の考えを深めている姿が見られた。

振り返りでは、「やりたいことやすべきことが明確ではなかったが、見付けることが大切だと思った」「今まで安定した仕事はよいところがないと思っていたが、安定した仕事をすることで理想に近付けることになると思った」のように、道徳的価値の理解を基に自己を見つめている姿が見られた。他にも、「本当にそれがやりたいのか見直して、もっとやってみたいことを目指して頑張っていきたい」「充実した人生が送れるように自分が選択したことを精一杯努力していきたい」のように、学習のめあてである「充実した生き方」への具体的な実践意欲について記述している生徒がいた。授業を通して多様な意見に触れたことで、広い視野から道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分の考えを深めることにつながった（図8）。

5 考察

手立て①では、中心発問において道徳的価値について考えを交流した上で、保護者の立場からの意見を提示したことで、自分の考えと比較しながら道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分の考えを深めることができていた。それは、保護者の自分たちに対する切実な願いに触れることで、ねらいとする道徳的価値について自分事として捉えることができたためであると考えられる。保護者の意見の活用は、少人数学級において多様な意見に触れられるという点で効果的であった。より効果的に活用するためには、保護者の意見のキーワードとなる部分を強調して提示するといった工夫が必要である。そうすることで、意見を交流する時間を十分にとることができ、自分の考えを更に深めることができるのではないかと考える。

手立て②では、生徒にとって身近な地域の方のインタビュー動画を視聴し、職業観の異なる二人の考えに触れたことで、学習のめあてに対する多面的・多角的な考えを引き出すことができた。ゲストティーチャーとして授業に直接参加していただくことができなくても、授業者の意図に合わせたインタビュー動画とすることで、ねらいとする道徳的価値について考えを深めるのに有効であると言える。他にも、ウェブ会議機能を用いて授業で直接やり取りをすることで、生徒がより考えを深めるのに役立つのではないかと考える。

保護者や地域の方の意見を活用することは、生徒が考えを深めることに有効であった。アンケートやインタビューなど、それぞれの活用の特徴を理解し、今後も積極的に活用していきたい。



図7 動画を視聴する生徒の様子

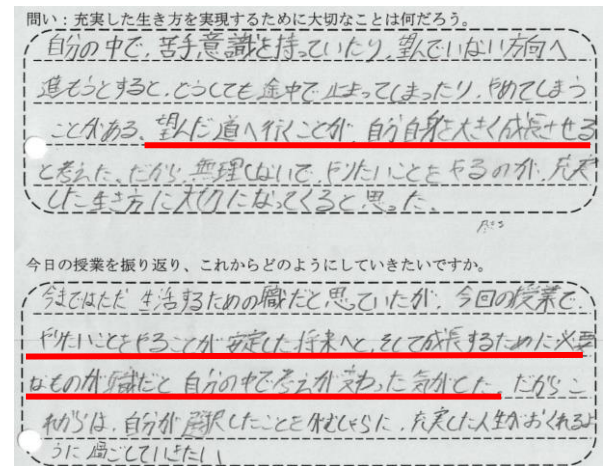


図8 自分の考えを深めた
生徒のワークシート